

令和7年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）					対象年度		令和6年度		
事業番号	109	事業名	アートのまちフェスティバル事業		担当課		生涯学習課		
			(中事業名) アートのまちフェスティバル事業		予算区分(款-項-目-中事業)		9-4-5-6 アートのまちフェスティバル事業		
					決算書ページ		233	~ 233 一般	
I 基本情報	総合計画	基本目標	5	いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪					
		政策	1	まちの資源を生かした市民同士の交流の促進					
		施策	(2)	文化芸術による交流					
	その他	開始年度	2012						
		終了予定年度	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 未定	市民・民間事業者との連携協働の可能性		両者と協働可		
		根拠法令等	文化芸術基本法、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律						
		関連計画	ながくて未来図（長久手市第6次総合計画）（H31. 3） 第3次長久手市文化芸術マスタープラン（H30. 3）						
	事業の概要・目的	①事業概要 (どんな取組を行うのか)		アウトプット（詳細はⅡへ）		アウトカム（詳細はⅢへ）			
				②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか)		③中間成果 (①【対象】がどのような 状態に変わるのか)		④最終成果 (大事業の将来像)	
		【対象】 <input checked="" type="checkbox"/> 市民 <input type="checkbox"/> 事業者 <input type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> その他 対象の数： 61000 【事業内容】 文化の家をはじめとする各施設、 ギャラリー等市内全域で行われ るアートの祭典を、市民アーティ スト・大学等とのパートナーシ ュで運営します。(R7は工事 休館中のため、実行委員会単独開 催)		【アクションプラン指標】 アートのまちフェスティバル事 業来場者数 【その他の指標】 市民参加の延べ人数 【主体的に事業を運営する市民 の人数】		市民に多様な芸術体験の機会を 提供する場が増加する。 (成果指標名) すべての事業での新聞等の掲載 回数		大事業共 通 市民が芸術体験を通して、豊か な心を育み、未来を生きる楽し みと希望を見いだしていく。ま た芸術活動を通じた市民活動に 参加することで、人と人の絆を 深め、誰もが孤立しない社会が 形成されていく。	

Ⅱ 活動状況（アウトプットの詳細）	活動指標	活動指標名		単位	基準値（2023年） 目標値（2028年） ※AP指標のみ		区分	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度	R10(2028) 年度
		1	【アクションプラン指標】	人	基準値	17,500	見込	10,000	10,000	18,000	10,000	10,000
			アートのみフェスティバル事業来場者数		目標値	19,000	実績	15,000				
		2	【その他指標】	人	基準値	-	見込	10	10	10	10	10
			市民参加の延べ人数		目標値	-	実績	3				
			【主体的に事業を運営する市民の人数】									
		3			基準値		目標値					
				目標値		実績						
		4			基準値		目標値					
				目標値		実績						
エピソード	事業開始 の背景	県芸がある長久手市だからこそできるアートフェスティバルを開催できないかと市民主体で2012～スタートした実行委員会による事業										
	各年度の実績、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由											
	R6	実行委員会が単独でモリコロパークで開催している。来場者も多く、充実したアートイベントとなっていた。今後も実行委員会が単独でも開催できる力を維持していく必要がある。その他指標の、市民参加の延べ人数は、実行委員会の人数が激減したための数字である。委員がボランティアで行う事業のため、負担が大きくなったことや、実行委員同士の考え方の違いから、離れる人が増え、減員してしまった。				R7						
	R8					R9						

Ⅲ 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）	成果指標（CHECK）	成果指標名（中間成果をはかるもの）		単位	成果指標の推移と目標										
		すべての事業での新聞等の掲載回数		回	R4 年度		R5 年度		【現状】 R6 年度		R7 年度		R8 年度		
					52回		35回		38回		58回		60回		
		成果達成状況					指標目標値の根拠								
		C	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている					事業の紹介記事が新聞等掲載されることは、広域への周知のみならず、事業の価値を客観的に市民に伝える根拠や裏付けとなるため。							
	評価の理由、分析														
	新聞記事の掲載は、コロナ禍で事業が減少した影響があり、一時期落ち込んだが、近年再び掲載数を増やしてきている。それでも掲載数に年度によっていくらかの幅があるため、地元新聞記者との関係性を構築し、定期的な事業の取材依頼を欠かさないことが必要となる。														
	加える変化（ACTION）	今後の方向性		今後の方向性の理由											
		B	A. 拡充 B. 現状維持 C. 縮小 D. 廃止		実行委員の数が減っているため現状では拡充することはできず、現状維持に注力するべき。										
		改善ポイント													
（成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入）															
見直しの余地のある取組名		見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容								見直し可能年度				
1	実行委員数を増やし、市民の力で事業を実施できるように支援を行う。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	市民で運営する実行委員会のため、意識は高いが広報な面では支援が必要なため、新聞やマスコミへのつながりを行うことでPRしていく。								R8				
2		<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止													
3		<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止													

IV 費用	令和8年度予算の方向性（PLAN）	R8年度の費用（R7年度比）		3年間の推移	(単位：千円)		R5(2023)年度		R6(2024)年度		R7(2025)年度
		B	A. 拡充 B. 現状維持		事業費	予算	決算	予算	決算	予算	
			C. 縮小 D. 廃止			1,075	1,100	310	240	280	
		理由			特定財源	合計額					
		現在の実行委員の人数が減員しているため、現状維持に注力し、事業の維持をすることを最優先にしたい。				(内 国費)					
						(内 県費)					
						(内 諸収入)					
						(内 その他)					
		積算額			一般財源	1,075	1,100	310	240	280	
		未定			R7年度予算の内訳 ＜細々節名、 予算額、（R6年度予算額）＞						
事業・公演等委託 280（310）											